

大観峰まで一気に！

健脚競うトレイルランニングイベント

「トレイルランニング」のイベントが3月20日、小里の阿蘇草原保全活動センターをスタートに行われ、県内外からエントリーした53人がゴールの大観峰を目指し健脚を競いました。今回のイベントは、5月に本市で開催する西日本最長トレイルランニングイベントのプレイベントとして開催。麓から大観峰までの高低差約450mを駆け上がる約6kmのコースで、雨が降る悪天候の中、野焼きを終えたばかりの草原を駆け登りました。

参加者は「あつという間だったけど楽しく走ることができた」と満足した様子でした。

わだい



大観峰の尾根を駆けあがる参加者

※舗装されていない山道を走る中長距離走の一種。

News



被災から5年、新たな施設に

養護老人ホーム「あそ上寿園」着工

九州北部豪雨により被災した養護老人ホーム上寿園の移転建替え工事に伴う起工式が3月13日、建設地の旧乙姫小学校グラウンドで行われ、関係者約50人が出席しました。

これまで市が運営していた同施設は、平成27年度に市の選定委員会により、社会福祉法人致知会が運営することが決定し、来年3月のオープンを目指します。

施設名は「あそ上寿園」に変わり、建物は鉄骨平屋建て、入所者定員は50人となります。

木のぬくもりを感じて

県産材使用の玩具やベンチなどを寄贈

阿蘇森づくり協議会（阿南忠治会長）は3月、内牧、波野、宮地、りんどう保育園の4園に、木箱に入った県産材で作られた積み木を寄贈しました。

これは、同協議会が時代を担う子どもたちに木の良さを知ってもらおうと毎年企画しているもので、今後も市内全ての保育園と幼稚園に木製玩具を贈ることを計画しています。

また、（公社）国土緑化推進機構も、熊本地震復興支援の一環として、阿蘇市の保育園や小学校、公営住宅に、間伐材を利用したプランターやベンチを寄贈しました。

わだい



木製の積み木を手に喜ぶ波野保育園の子どもたち

わだい



幻想的な炎の輪

炎の輪に復興の願い込めて

阿蘇神社火振り神事

国指定重要無形民俗文化財「阿蘇の農耕祭事」の一つ「田作祭・火振り神事」が3月22日、阿蘇神社で行われ、復興の願いを込め力や束が廻されました。

ことは、楼門の解体工事の影響で規模を縮小し行われ、参道の南側の一部のみで催行。オープニングセレモニーでは、大阿蘇御神火太鼓保存会による太鼓で開幕。毎年力や束作りに協力する一の宮中学校の生徒が、火振り神事の概要を観光客らに説明した後、氏子が参道で火をつけた力や束を廻すと、観光客は幻想的な光景を前に目を奪われていました。

地方自治の伸展に功績

坂口源氏と故阿部惟品氏に旭日単光章

地方自治の伸展に功績があったとして、坂口源氏（榑木野）、故阿部惟品氏（小倉）がそれぞれ旭日単光章を受章され3月30日、市役所で伝達式が行われました。

坂口氏は、波野村議会議員として昭和62年から平成11年まで3期12年の永きにわたり務めました。総務常任委員会委員長や村議会副議長などを歴任し、当時、高齢化が急速に進む中、医療福祉施設の充実を図るため、総合福祉施設「やすらぎ荘」の建設に積極的に関与しました。

阿部氏は、阿蘇町・阿蘇市議会議員として、平成2年に当選以来、平成19年まで4期16年余りの永きにわたり務め、総務常任委員会委員長などを歴任。当時の類似町村では類を見ない大規模なスポーツ施設「農村公園あびか」建設事業の推進に尽力されました。



写真右から坂口源さん、佐藤市長、故阿部惟品さんの妻クニエさん、長男節生さん。

内科（高血圧・糖尿病・コレステロール等）

腎臓内科・人工透析

在宅療養支援診療所 訪問診療

来院困難な患者様は訪問診察でお支え致します

名誉院長 坂梨 俊彦
院長 坂梨 剛史
副院長 坂梨 淳子

3人体制により
待ち時間を短縮しています



医療法人 坂梨ハート会

さかなしハートクリニック

阿蘇市小里249の2
☎0967-24-6262

寄贈された日本刀で演舞

中江岩戸神楽定期公演

今年最初の中江岩戸神楽定期公演が4月2日、中江神楽殿で開かれ、100人を超える来場者があり、神々の舞を楽しみました。

公演の冒頭、1月に中江岩戸神楽保存会会員宅の火災により日本刀が焼失し、宮地在住の笹原俊和さん（古神2区）が日本刀を寄贈したことに対する感謝状が贈呈された後、子ども神楽による演舞を皮切りに全5演目を披露。寄贈された日本刀を使用した演舞『綱切』では、大蛇に見立てたしめ縄を勢い良く斬りつけるシーンに、来場者から大きな歓声が上がりました。

わだい



演舞『綱切』でしめ縄に刀を入れる様子

中江岩戸神楽定期公演は10月を除く11月までの第1日曜午後1時から開演。ぜひご来場ください。

News



新入団員辞令を代表して受領した立石さん

消防団員 54 名が新たに入団

阿蘇市消防団辞令交付式

阿蘇市消防団辞令交付式が、4月3日、市役所で行われ、新たな副団長に就任した家入靖幸さん（内牧2区）、高日龍治さん（大道）のほか、昇格者と新入団員に辞令が交付されました。

今年度は、女性消防団員2名を含む54名が新入団員として入団、代表して女性消防団員の立石渚さん（下西黒川）が辞令を受領しました。

平成29年4月1日現在の消防団員数は総勢779名。地域の安心安全を守るため日々尽力しています。

阿蘇の創造的復興に向けて

第1回阿蘇復興シンポジウム

阿蘇市災害ボランティアネットワーク（中坊真代表）が主催する第1回阿蘇復興シンポジウムが4月1日、阿蘇体育館で開かれました。

このシンポジウムは、阿蘇の復興を支援する人々と阿蘇市内の関係機関との連携や協力体制を構築することを目的として開かれたもので、消防署による救助・救出活動の基調報告や、災害ボランティアによる活動報告が行われました。また、観光と防災という視点に立った復興に向けての提言がありました。

わだい



わだい



悪天候にもかかわらず賑わいを見せる門前町商店街

桜はないけど大賑わい

阿蘇神社門前町でお座敷商店街

阿蘇神社北側の門前町商店街で4月2日、200以上にわたる『お座敷商店街』が開かれました。今年も、熊本地震から一年を迎えることもあり、これまでの支援に感謝を込めてお花見メニューを特別価格で提供。あいにくの悪天候に桜の開花の遅れが重なる中、千人を超える人で賑わいました。

『お座敷商店街』は、門前町商店街の2代目店主などの若者世代で作る『若きやもん会(若永芳幸会長)』によって6年ほど前から開催。今では毎年恒例の人気行事となっています。

長きにわたり地域に貢献

江入鐵雄氏が厚生労働大臣特別表彰

地域福祉活動の中心的な担い手として尽力された江入鐵雄さん(跡ヶ瀬)に厚生労働大臣特別表彰状が贈られ4月12日、伝達式が行われました。

江入さんは、跡ヶ瀬地区の民生委員・児童委員として平成13年12月から平成28年11月まで、15年間の長きにわたり積極的に活動され、その功績を称え、今回の表彰となりました。

江入さんは、「高齢者を支えるのは家族だけでは難しい。地域の人たちが一体となって支えあう取り組みが必要」と地域が抱える高齢化問題について意見を述べられました。

表彰



表彰状を受け取った江入さん(左)

わだい



認定書を受け取った中村さん(中央左)と
中野さん(中央右)

キャンピングカーの受入強化

RVパーク阿蘇内牧と阿蘇B & Bを認定

キャンピングカー専用の滞在施設であるRVパークのオープン式典が4月8日、内牧温泉街アートチで開かれました。

日本RV協会によるRVパークの公式認定を受けたのは、内牧温泉街繁栄協会(中村洋史会長)が運営するRVパーク阿蘇内牧(内牧温泉街アートチ前)と、中野耕太郎さん(黒川千丁)が運営する阿蘇B & B(黒川千丁無田)の2カ所。

RVパークは、24時間使用できる電源、水道、トイレ等があることが認定条件。2012年に山鹿市が認定されたのを皮切りに、全国80カ所以上に広がっています。

野球指導で復興支援

元ソフトバンクホークス選手の野球教室

熊本地震で被災した子どもたちのため3月20日、元ソフトバンクホークス柴原洋選手による野球教室が阿蘇西小学校体育館（的志）で開かれました。

柴原選手はホークスの黄金時代を支えた松中選手、小久保選手、城島選手とともに『四天王』といわれ活躍した選手で、当日は、学童野球チームの約60名が参加。走塁やキャッチボール、守備、バッティングなど野球の基本や努力の大切さについて指導がありました。

最後に、参加者を代表して学童野球クラブ『阿蘇ビクトリー』の村上基樹主将が感謝の気持ちを柴原選手に伝えました。

わだい



参加した子どもたちに指導する柴原選手

わだい



波野小学校の1年生に防災頭巾の贈呈

災害に備え安全対策！

デイセンターなみのから防災頭巾寄付

デイセンターなみのの利用者6名が4月13日、波野小学校を訪問し、手作りの防災頭巾14枚と雑巾30枚を1年生に寄付しました。

防災頭巾は、デイセンターの創作の時間に裁縫の得意な利用者3名がタオルを使って製作。「小学生が使うので、アップリケの場所を工夫した」と製作した際の苦労を話しました。

坂田菊美校長からは、「波野小学校に防災頭巾をいただき大変ありがたい」と感謝を述べました。

復興のシンボル育て！

YMCA 黒川保育園で桜の植樹

熊本YMCA黒川保育園で4月14日、桜の植樹が行われました。

海外13カ国のクラシックカーのオーナーたちが、自車を日本に持ち込み24日間かけ縦断する『サムライチャレンジ』の道中に地震の被災者を勇気づけようと阿蘇に立ち寄ったもので、桜の苗木8本を寄贈。阿蘇市の熊本YMCA福祉会4園の園児たちと一緒に植樹を行いました。

参加したイギリス人のメンバーは、「地震の被害を聞いて少しでも力になりたい。この桜の木を復興のシンボルにしてほしい。」と願いを述べました。

わだい



園児と一緒に植樹するクラシックカーのオーナーたち